

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立敷島北小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／英語に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は、全国平均と比べやや低くなっています。特に、目的に応じて必要な語句を用いて、短くまとめて書くことや、相手にわかりやすく説明する文を書くことに大きな課題が見られます。一方、漢字を書く問題は全国平均並みの正答率で、ある程度の定着率があることが推測されます。
- ・算数の平均正答率は、全国平均と比べてわずかに低くなっています。その中でも、速さの求め方や面積を求めるといった基礎的な内容は高い定着率になっています。一方、思考、判断、表現の力が求められる設問で課題が見られます。
- ・国語、算数ともに無回答率が高く、最後まで粘り強く考え回答することを苦手としている児童も一定数いることも課題です。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向が認められる項目
「将来の夢をもっていますか」「人が困っているときに進んで助けますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」「地域の行事に参加していますか」について高い数値を示しています。
「学校の授業以外の時間にどれくらいの時間読書を読みますか」について、全国より長い時間読書をする傾向にあります。
- ・課題となる項目
「普段1日当たりゲームをする時間が2時間以上する」と答えた児童の割合が全国と比較して高いです。
「5年生までにICT機器をどのくらい使いましたか」「ICT機器を意見交換や調べたりするためにどの程度利用していますか」については低い値を示しています。
「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表していましたか」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」について低い値が示されています。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・教科の学習においては、自分の考えを伝えあう場面を意図的に授業の中に設定していき、考えをまとめたり、分かりやすく伝えるための工夫をさせたりして、思考力・判断力・表現力を育てます。
- ・分かりやすく短くまとめる経験を増やし、文を使って伝える力を伸ばします。
- ・調べる活動や意見交換などの場面で、1人1台端末を有効に活用し、学習効果を高めます。
- ・わからないことがあっても最後まで粘り強く考え、友達と協働的に考えを構築していく場面をつくります。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・ゲームに長時間没頭しないように、1日当たりのゲームをする時間についての約束を決めてください。
- ・基本的な生活リズムが整っている傾向がみられるので、計画的に学習したり家の仕事をしたりすることに取り組んでください。
- ・読書時間が長い傾向ですので、お子さんと一緒に良い本を選んでみてください。